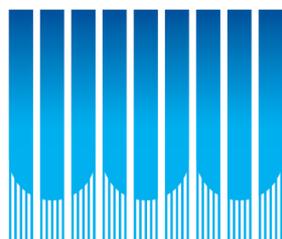


【先進事例紹介】

# レンタサイクルを基軸とした しまなみ海道活性化事業



SHIMANAMI  
J A P A N

2024年7月4日  
しまなみ海道DXコンソーシアム

# 1.自己紹介

一般社団法人しまなみジャパン 専務理事 坂本大蔵

## コンソーシアム名

しまなみ海道DXコンソーシアム

## 実施主体

### ■ 代表団体／企業

一般社団法人しまなみジャパン

### ■ 活動地域

しまなみ海道地域  
(広島県尾道市、愛媛県今治市・上島町)

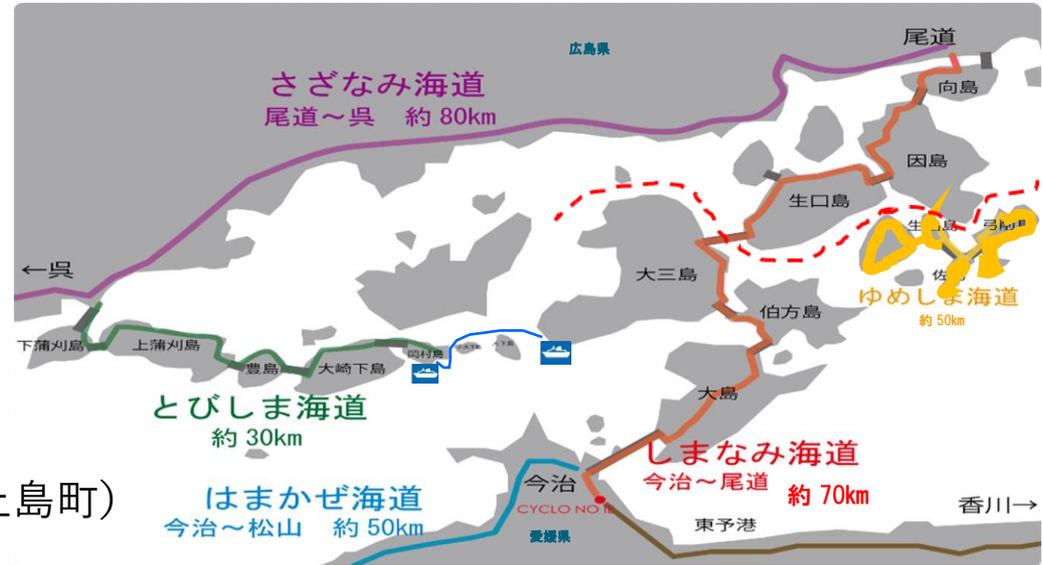
### ■ 活動概要・経歴

- 1994(平成6)年2月 「西瀬戸自動車道周辺地域振興協議会」を設立
- 1996(平成8)年4月 「瀬戸内しまなみ海道周辺地域振興協議会」に名称変更
- 2007(平成19)年4月 観光推進を統合し、「瀬戸内しまなみ海道振興協議会」を設立
- 2017(平成29)年3月 観光地域づくり法人に発展改組し、「一般社団法人しまなみジャパン」設立
- 2022(令和4)年4月 レンタサイクル事業を統合し、本部を今治市に移転

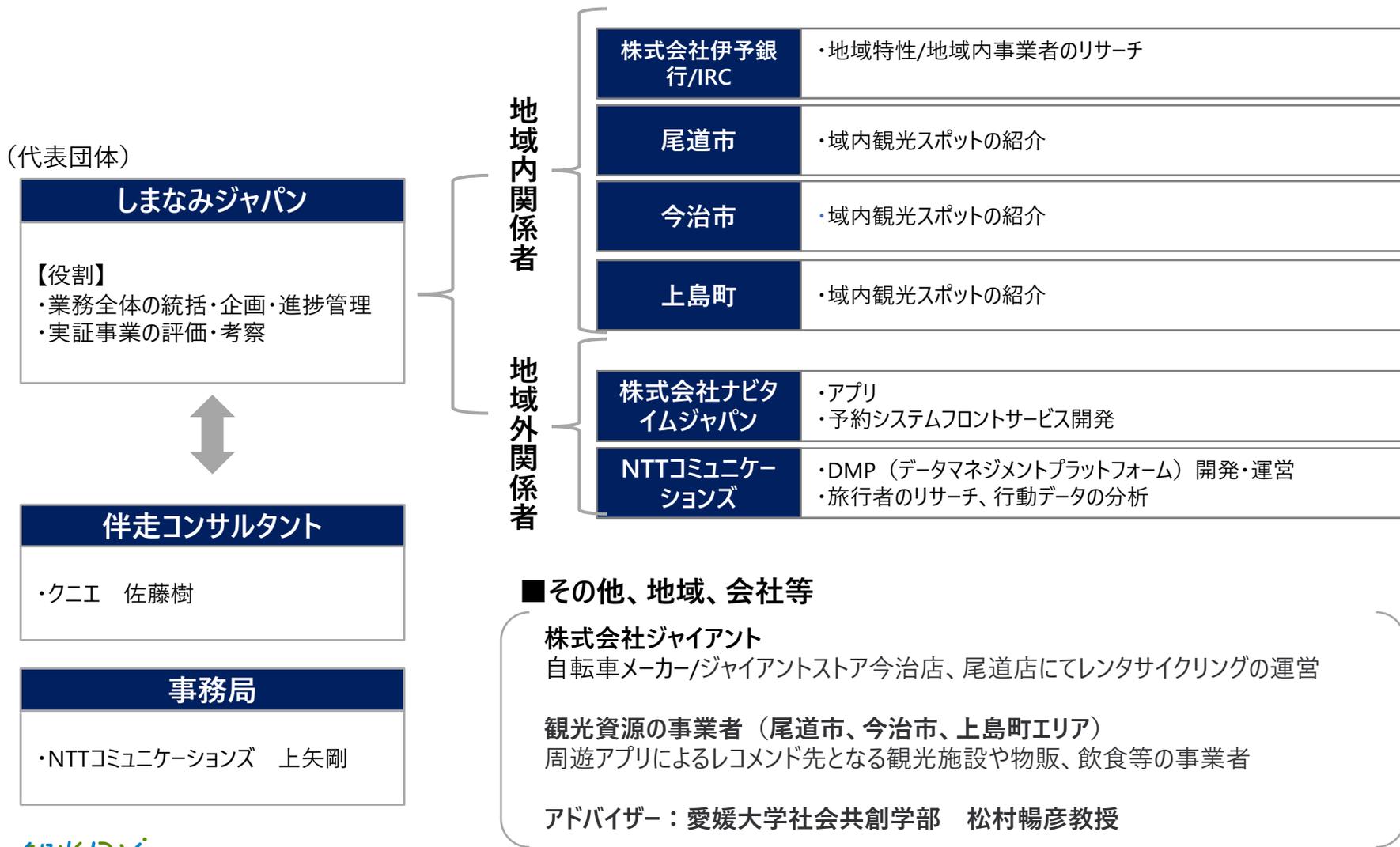
#### 【概要】

しまなみ海道沿線にある広島県尾道市、愛媛県今治市、同県上島町の2市1町を中心に構成されたDMO  
しまなみ海道のレンタサイクルをメイン事業に、観光情報の発信やサイクリングのPRを通じて、しまなみ海道の魅力を世界へ伝えるため幅広い取り組みを行い、観光関連産業の振興と交流人口の拡大による地域活性化を目指している。

瀬戸内しまなみ海道の位置



## 2.事業の実施体制



### 3.しまなみ海道の魅力や特徴

#### 魅力

一番の魅力は広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ約70kmのサイクリングロードです。

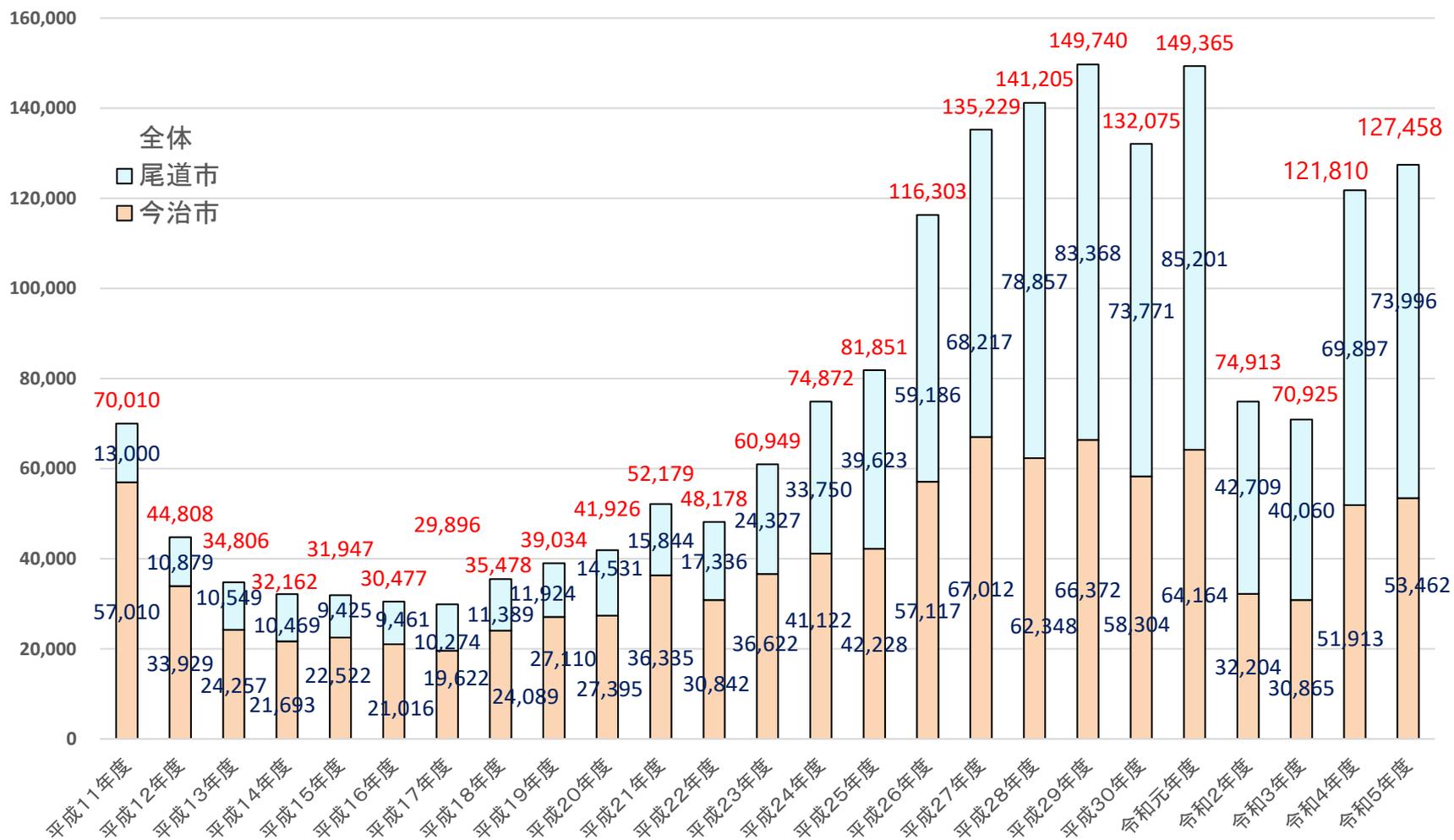
日本で最初に国立公園に指定された瀬戸内海は独特の多島美を有しており、海・島と山地、丘陵が織りなす多様で豊かな自然や絶景を楽しむことができます。

この「しまなみ海道サイクリングロード」はサイクリストの聖地とも言われ、CNNが選ぶ「世界で最もすばらしい7大サイクリングコース」にも選ばれ、世界屈指のサイクリングコースとして、世界中からサイクリスト達が訪れています。

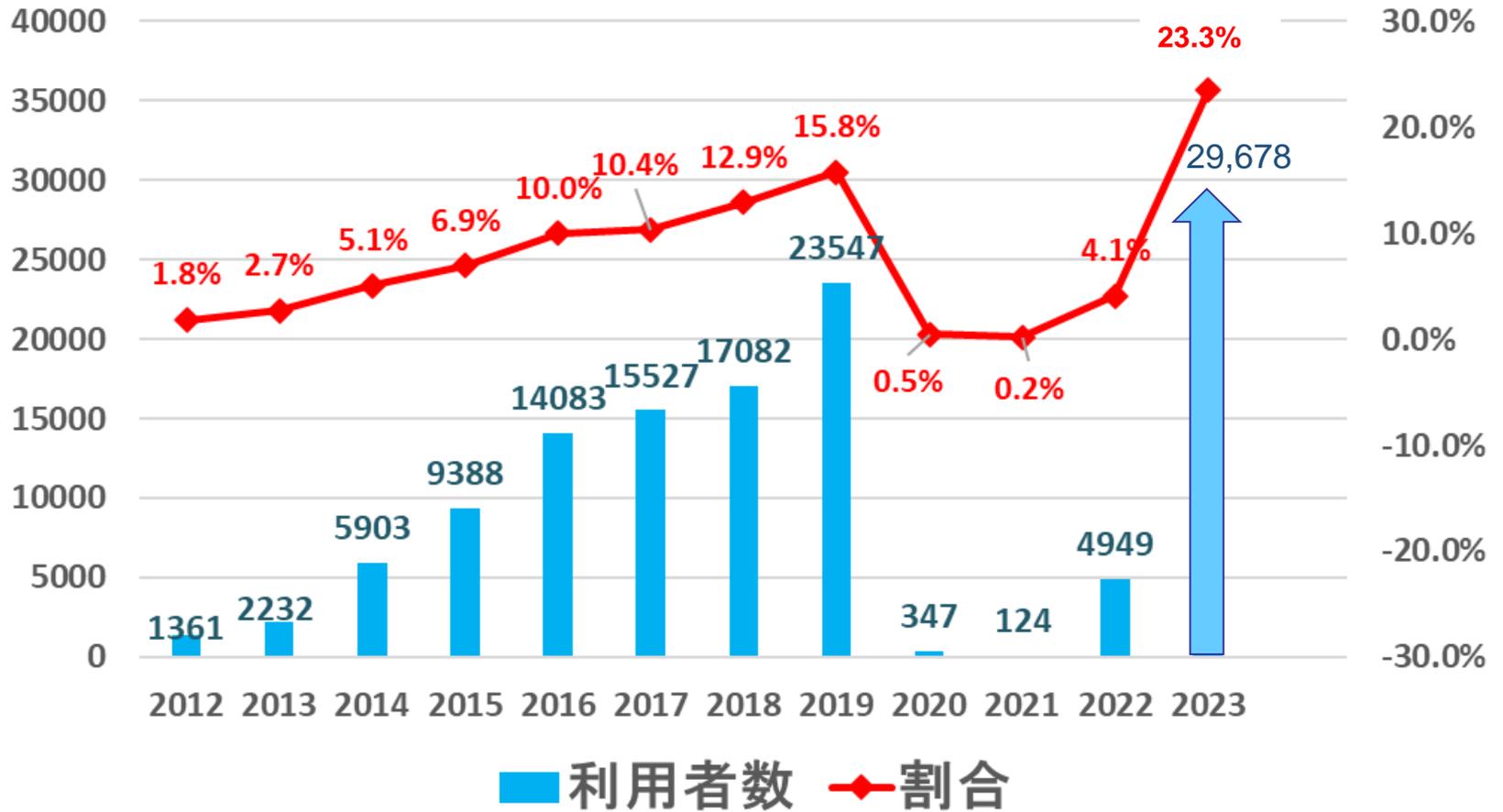
サイクリングが観光資源のキラコンテツツとなっており、年間34万人を超えるサイクリストの来訪があり、地域活性化と地域振興の礎となっています。



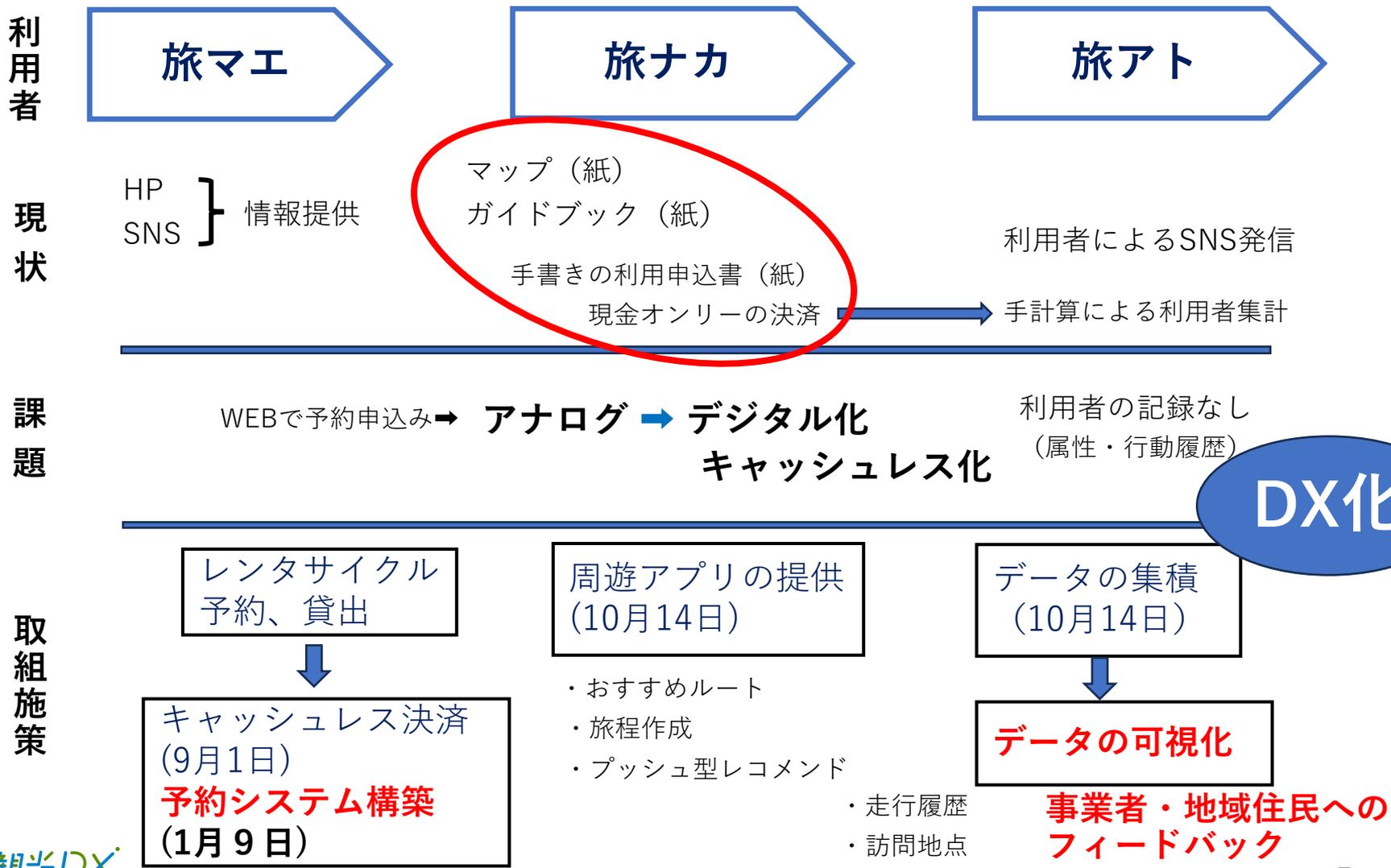
# しまなみ海道レンタサイクル利用実績

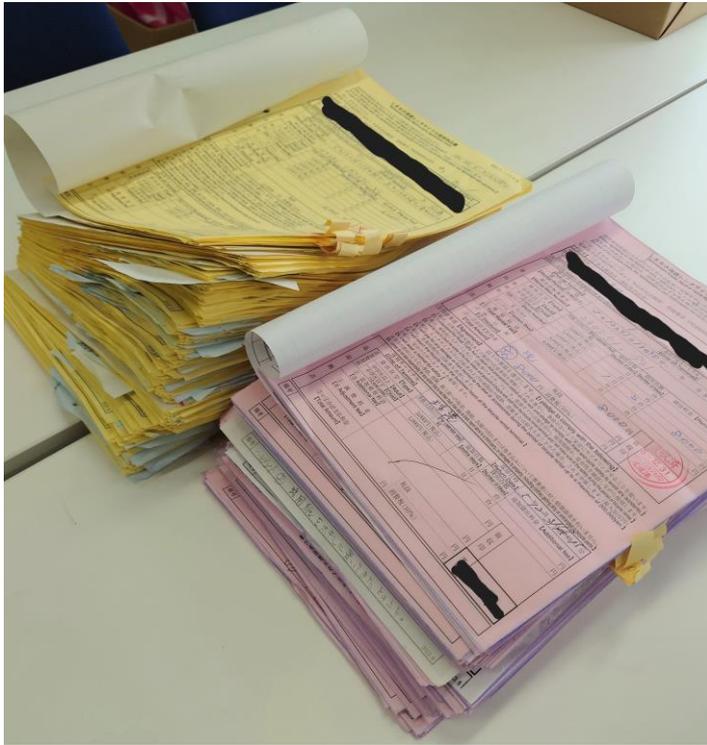


## 外国人サイクリング利用者数、割合



# 【レンタサイクルを基軸としたしまなみ海道活性化事業の全体像】





手書きの利用申込書（1か月分）  
＋  
現金決済



タブレットによる予約内容の確認



キャッシュレス決済

## 4 .DX事業でなにを目指すか

### 目指す姿

レンタサイクル利用者に対して、情報発信・予約システムのデジタル化やキャッシュレス決済の導入等を図り、旅行者の利便性向上による域内周遊や消費を促進させるとともに、将来的なリピーター獲得に資するデータ基盤を構築することで、観光消費額の拡大および地域の活性化に貢献する。

本事業を通じて、「サイクルツーリズムを中心に位置付け、継続的な観光需要を創出し、持続的な地域活性化の達成」を目指す。

#### 方向性1

スマートフォンアプリによる旅行客の周遊促進

#### 方向性2

データを活用した観光地経営の高度化

#### 方向性3

デジタル施策による観光産業の生産性向上

## 5.DX事業の目標設定

KGI

ゴール：旅マエから旅ナカでの情報収集や予約における旅行者側の利便性を高め、域内周遊を促し、観光消費を拡大させ、地域の活性化に貢献する。

目標値：事業期間中のアプリで計測可能な訪問地点延べ数 **45,000地点**

### 実証内容

### 概要

### 目標

### 頁

#### 実証1

KPI

レンタサイクル利用者向け周遊アプリの構築・運営

観光情報やサイクリングコース検索、自転車旅程作成、レンタサイクル予約、地図表示、観光情報検索、PUSH通知や音声情報発信等のレコメンド機能を有するアプリを構築。レコメンドを行うことで、行動変容を誘起するかどうか実証する。

**アプリDL数 10,000DL**

P.11

#### 実証2

観光地経営の高度化に向けたデータ連携基盤の構築

周遊アプリから、「走行経路（GPSログ）」や「訪問地点」等のデータを蓄積する「データ連携基盤」を構築。また、蓄積したデータは、ダッシュボードを用いて可視化を行い、データ分析・傾向把握を行う。

**データ活用**による観光関係者のアイデア創出・施策検討ができること

P.15

#### 実証3

予約システム、キャッシュレス端末の導入による業務改善

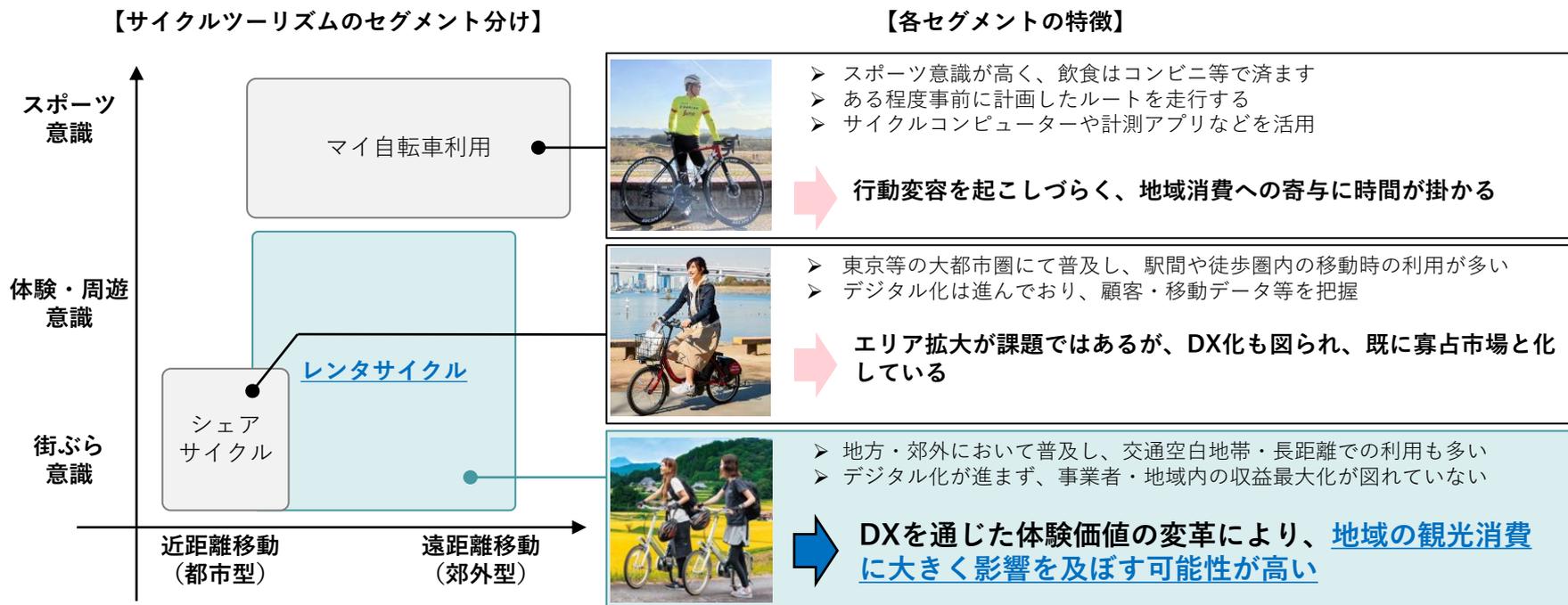
レンタサイクルのweb予約情報をもとにしたペーパーレスな受付、リアルタイムな車種情報の連携による予約枠拡大、キャッシュレス化等のデジタル化による業務改善を行う。

旅行者の利便性向上と共に、受付窓口業務の紙記入の受付や現金決済などの**アナログからデジタル化**へのシフトができること

P.21

# 6.実証1 周遊アプリの工夫

## ■ システム開発：①セグメント・ターゲットの高解像度化



セグメントの細分化（ターゲティング）

① しまなみ海道を知っている層  
(顕在顧客)

② しまなみ海道を知らない層  
(潜在顧客)

## 6.実証1 周遊アプリの工夫

### ■ システム開発：②ポジショニングとプロダクト（提供すべき機能）

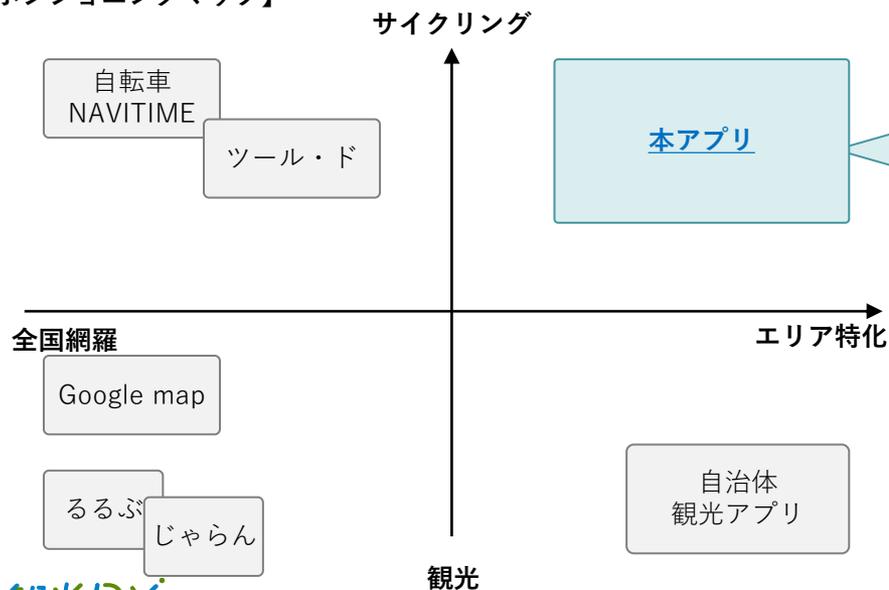
#### ターゲットが求めていること

- いつもの「旅行」ではなく、「サイクリングによる特別な旅行・体験」であること
- 「海を渡る広いエリアでの旅行」「サイクリング=疲れる」等の不安を解消する“何か”が欲しい
- なるべくスムーズに計画通りに旅を進めたいが、いまが旬の情報やローカルなイベントなど突然の出会いが歓迎



以上の整理から、ポジショニングとプロダクトを検討

#### 【ポジショニングマップ】



#### 【プロダクト（提供すべき機能）】

体験の満足度向上に  
寄与する機能  
(=あつたら嬉しい機能)

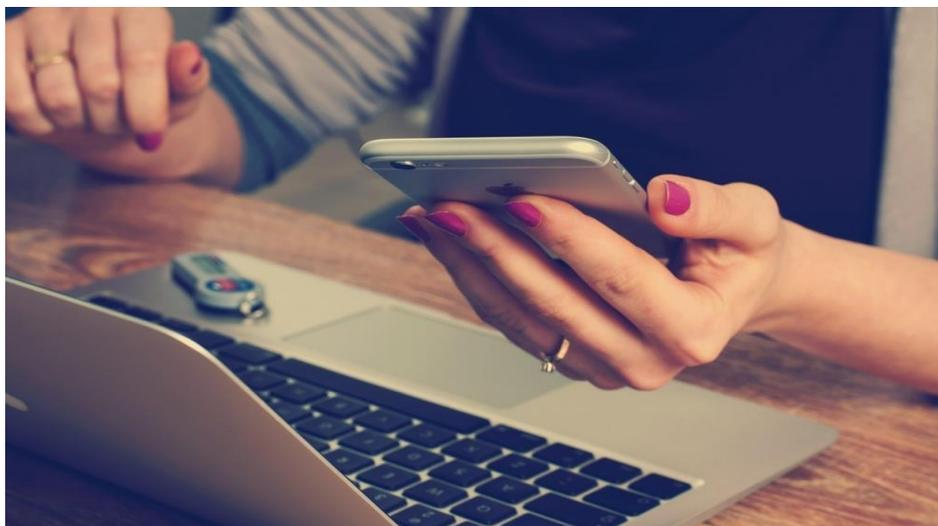
体験の満足度低下に  
つながってしまう機能  
(=あつて当然の機能)



## 6.実証1 周遊アプリの工夫

### ■ システム開発：③アプリコンセプト

計画的な「行きたい」も、突発的な「行きたい」も叶えて、  
記憶と記録に残る楽しいサイクリング旅を実現するアプリ



「ここに行きたい」を保存し、  
的確なプランニング



スムーズで迷わないサイクリングと  
旅ナカでの新たな出会いの誘発

## 6.実証1 周遊アプリの工夫

### ■ システム開発：④ 開発したアプリ

- 【走行前】観光情報やサイクリングコースの情報収集や自転車旅程の作成、予約システム（後述）を活用したレンタサイクル予約等の機能を提供
- 【走行中】地図表示や観光情報検索に加えて、時間（その時）・位置情報（その場所）・走行距離や走行時間（その人）に応じたPUSH通知や音声情報発信の機能を提供
- 【走行後】自転車の走行ルートを確認し、それを用いたオリジナル画像を作成およびSNS投稿できる機能を提供



しまなみ海道  
サイクリングアプリ

01

#### 観光情報をチェック

気になる写真やお店の名前から観光スポットを検索できます。地図上では現在地付近の観光スポットが検索できます。



02

#### 自転車旅程を作成

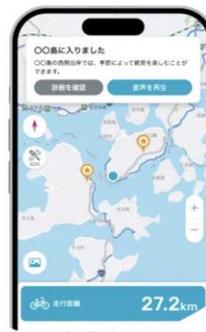
レンタサイクルの貸出・返却ターミナルを設定して、旅程を作成できます。また、立ち寄りスポットや休憩場所を旅程に組み込むことで、オリジナルのサイクリングコースが完成します。



03

#### 音声でしまなみを紹介

音声案内でしまなみ海道のおすすめスポットをご紹介します。絶景ポイントやおすすめのカフェ等をお伝えします。



04

#### サイクリングの思い出を記録

走行ルートや走行距離、走行時間等、あなたが走ったルートを記録することができます。自転車旅の楽しい記憶を記録します。



05

#### 旅の記録をみんなに共有

走行ルートや走行距離、走行時間等が確認できるだけでなく、あなたのサイクリング記録を用いたオリジナルの画像を作成して、シェアすることができます。



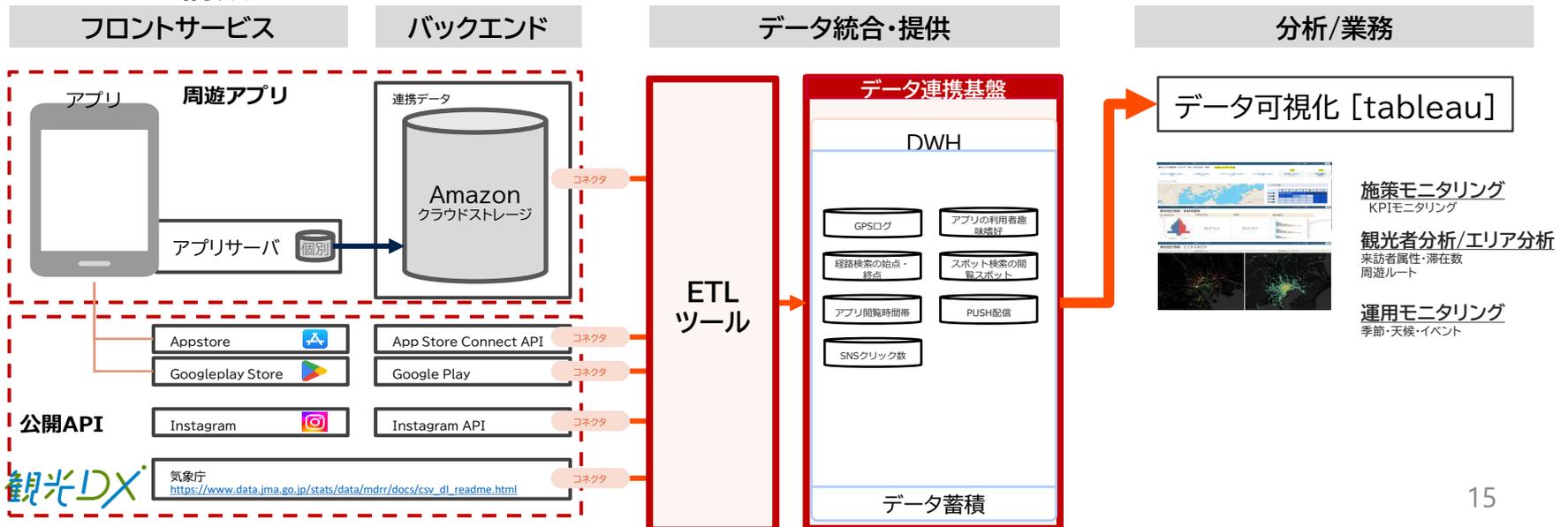
## 7.実証2 データ連携基盤の構築

### ■ システム開発

#### ● コンセプト・機能概要

- 的確な観光地経営やレンタサイクル事業運営、観光施策立案等を行うべく、「レンタサイクル貸出数」だけでなく、レンタサイクル利用者の「走行経路」や「訪問地点」等の地域経済に直結するデータを正確に把握する術、蓄積する術、可視化・分析する術を構築する。
- 周遊アプリを中心として得られるデータを収集・蓄積・可視化が可能となる連携基盤並びにBIツール・ダッシュボードを構築する。
- しまなみ海道は、複数エリア（尾道市・今治市・上島町）に跨る広域エリアとなるため、それぞれのエリアにフォーカスした分析を行い、旅行者の視点を把握する。
- また、特定地点での滞在時間毎の分析等の旅ナカでの旅行者の行動に応じた分析が可能

#### ● システム構成

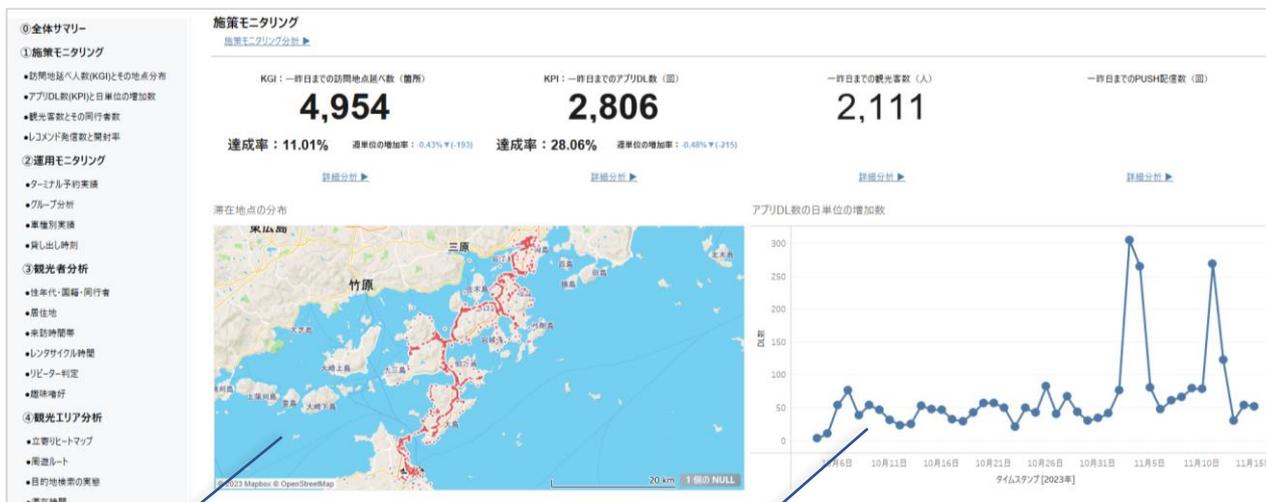


## 7.実証2 データ連携基盤の構築

### ■ システム開発

#### ● UI (ユーザーインターフェイス) /UX (ユーザーエクスペリエンス)

##### a. 施策モニタリング



訪問地点 (KGI) を地図へプロット

周遊アプリダウンロード数(KPI)の推移を日別で表示

- 本実証事業のKGI/KPIをモニタリングするための画面を準備
- 利用主体となるDMOや行政の施策に応じ、表示するデータのプリセット※が可能となる設計でシステムを構築

- 各画面のデザインルールの一貫を行い、利用に伴う学習コストを軽減

※事前に利用者単位に調整を行い、目的別のデータや設定値、ダッシュボードをセットしておくこと

##### b. フィルタ

空間

エリア [すべて]

検索スポット [すべて]

時系列

表示期間 2023/10/04 2024/04/02

表示期間 (曜日) [すべて]

表示時刻 0 23

天候

気温 0.50 22.50

降水確 0.00 10.00

属性

性別 [すべて]

年代 [すべて]

国籍 [すべて]

居住地 [すべて]

同行者属性 [すべて]

同行者数 [すべて]

趣味嗜好 [すべて]

- 旅行者属性やエリア別、時間別の状況を把握するため、フィルタ機能を整備

## 7.実証2 データ連携基盤の構築

### ■ システム開発

- UI (ユーザーインターフェイス) /UX (ユーザーエクスペリエンス)

### b. 滞在実績

#### ■ 5分以上：立ち寄りスポットの把握



#### ■ 30分以上：休憩スポットの把握



- GPSログに含まれる位置情報と計測時間を用いて、各地点における滞在時間を算出することで、**滞在実績に応じた分析が可能**
- 5分以上と30分以上の滞在時間から「滞在理由」を定義・比較することで、それぞれの地点の特徴を検証
- 5分以上の滞在が確認できた地点は、主要道路沿いに広く点在していることから、「小休憩（自販機で飲み物を買う等）」や「写真撮影」等をしていることが予想できる。
- 30分以上の滞在が確認できた地点近郊には、飲食店や観光スポットが存在することから、自転車を止めて「飲食による休憩」もしくは「観光」等をしていることが予想できる。
- どの地点でどのような理由で旅行者が行動および消費したかが仮説立てできるようになるとともに、隠れた「フォトジェニック」なスポットやサイクリストに人気のある隠れた「飲食店」等を発掘することが可能となる。

## 7.実証2 データ連携基盤の構築

### ■ データ利活用アプローチ

#### ● 3市町会議での報告

➤ 今治市、尾道市、上島町の3つのエリアに応じて、リサーチ×データの報告を実施。

#### a. 報告内容（今治市の分析事例のみ抜粋）

##### 行政の課題

- 今治市は、各ターミナルからのブルーラインを中心とした経路案内を実施してきたが、旅行者の行動についてははっきりとしたデータがない。

##### 課題に対する問い

- ターゲットは、どういう関心があって行動するのか。
- ターゲットは、スタート地点からどのような行動をしているのか。
- ターゲットの行動は、観光の消費とつながっているのか。

#### I. ターゲット/インタビュー

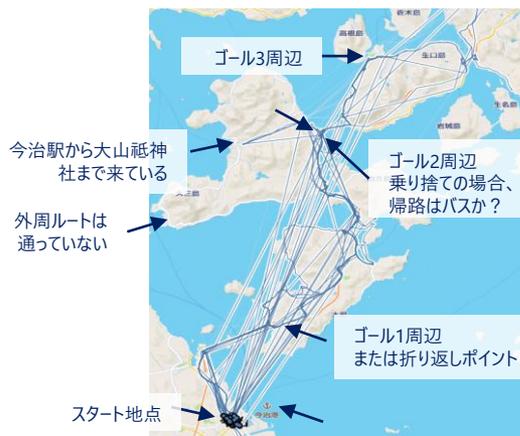
- 尾道側と比較して目的地が明確になっている利用客が多い。
- グループ年代は20代または40代以上が多い
- ファミリー層では来島大橋海峡の先での折り返し方がいた。
- 短い距離の走行ユーザは、周遊アプリに関心が薄い。

##### (仮) ファミリー層

男女：男女  
年齢層：親/30～40代、子/小学生～中学生  
国籍：日本  
同行者：3名（父母・子一人）  
同行者との関係：家族  
興味・関心：あまり遠くへは行かない。  
来島海峡大橋の途中で折り返す予定

#### II. 周遊ルート/データ

- ブルーラインを外れるコース選択は少ない。
- ファミリー層は短い距離を走っていると思っていたが、想定よりも走行距離が長い。



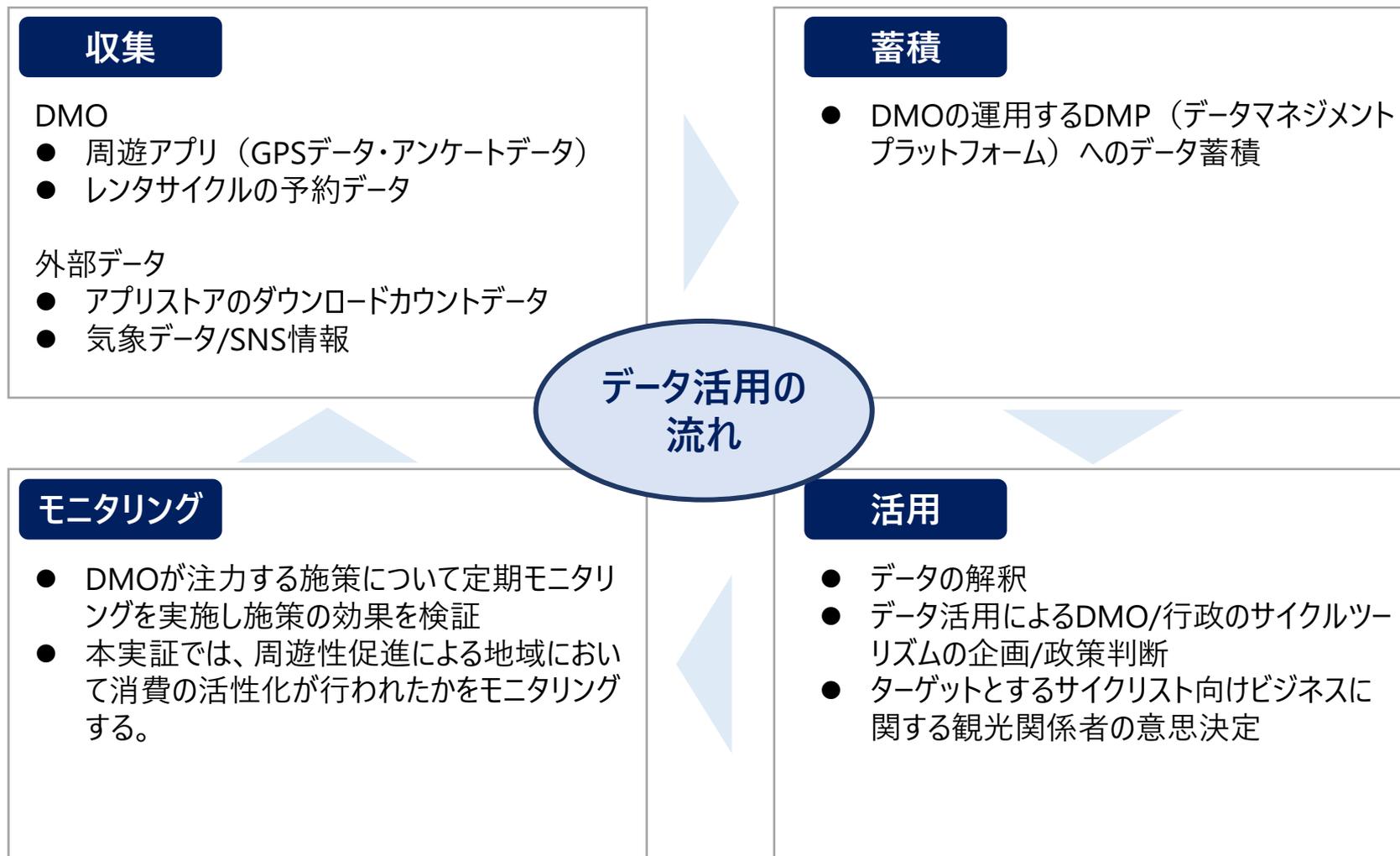
#### III. 滞在実績/データ

- 有名な観光地/スポットへ来訪しており王道とおり。
- 大山祇神社やさんわは、ブルーラインを外れ、周遊される場所として消費行動の可能性あり。



## 7.実証2 データ連携基盤の構築

### ■ データ活用の流れ



## 7.実証2 データ連携基盤の構築

### ■ 実証2のまとめ

- データ分析のベースとなるデータ連携基盤並びにBIツール・ダッシュボードの構築が完了し、レンタサイクルの周遊状況の分析が可能となった。
- 3市町の担当者とデータに基づいて対話することができ、データ・エビデンスの必要性に気付いてもらうことができたとともに、3市町からのさらなる期待についても感じることができた。
- 次年度以降は、データ分析から施策立案・実施、モニタリング・効果検証および次なる施策立案まで一連のPDCAを実行できる状態を目指す。

### ■ 目標

データ活用による観光関係者のアイデア創出・施策検討ができること

### ■ 結果

- 実証期間中に、コンソーシアム内で定期的なデータ共有会・勉強会を行い、コンソーシアムメンバーの理解醸成に取り組んだ。
- 今治市、尾道市、上島町が参加する3市町会議にて収集・分析したデータの報告を実施、また、一部の地域事業者との連携も図り、今後の相互送客等への足掛かりを築けた。
- 次年度以降に、データを活用した施策アイデアの創出およびモニタリング・効果検証を行う。

	課題の変化/今後の取組
DMO	「 <u>レンタサイクル貸出回数</u> 」しかエビデンスがない状況だったが、レンタサイクル利用者の「走行経路」や「訪問地点」等の地域経済に直結するデータをモニタリングできる状態となった。 一方、実証期間が閑散期であったため、GWや秋の繁忙期を含めたデータ量が蓄積できておらず、データの信憑性が低い状態。そのため、今後はデータ量の増加に資する取り組みが求められる。
行政	データ分析により、エビデンスに基づく政策立案（EBPM）が可能となるため、今後のサイクルツーリズム政策や交通政策等に本データを活用していただく。
観光関係者	バイクメーカーのジャイアントストア今治店・尾道店と <u>レンタサイクル事業者間の連携</u> によりしまなみ海道におけるデータの基盤が拡大できた。 相互送客含め、データ活用していく地域内連携の整備を行う。

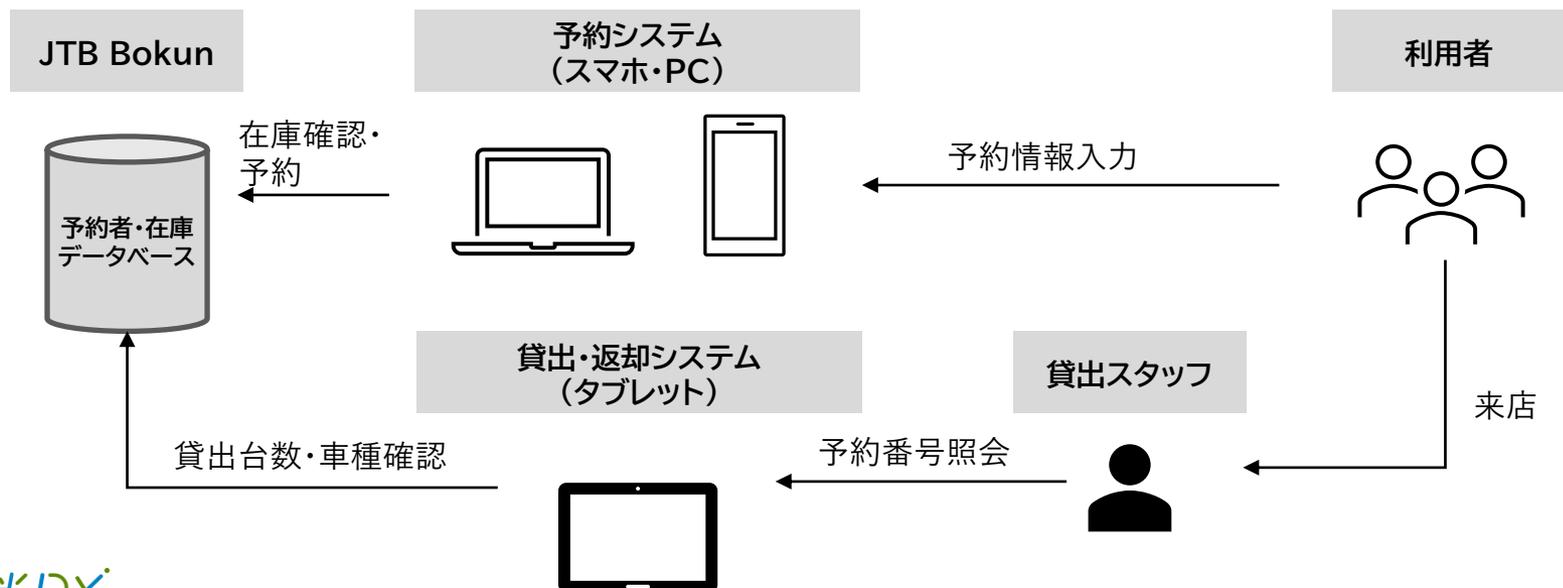
## 8. 実証3 予約システム、キャッシュレスの導入による業務改善

### ■ システム開発

#### ● コンセプト・機能概要

- ▶ しまなみジャパンが取り扱うレンタサイクル商品（10ヶ所のターミナル、かつ、8車種）をオンライン上で予約でき、在庫管理や予約処理等の業務を効率化させるシステムを構築
- ▶ なお、しまなみジャパンが取り扱うレンタサイクル商品は、他アクティビティ事業者と比べて特異な仕様となっており、最適なSaaSサービスが存在しないため、本実証では、JTB Bokun（予約者・在庫データベース）の導入と予約システム・貸出・返却システムの開発を行う。

#### ● システム構成



## 8. 実証3 予約システム、キャッシュレスの導入による業務改善

### ■ システム開発

#### ● UI（ユーザーインターフェイス）/UX（ユーザーエクスペリエンス）

- 旅マエの予定を決定するうえで選びやすいよう、予約システムのホーム画面は日付または貸出ターミナルから予約入力をスタートする。
- ホーム画面上部に、しまなみ海道サイクリングアプリDLを進めるためリンク添付

事前予約システム：ホーム画面（PC）



事前予約システム：ホーム画面（スマホ）



## 8. 実証3 予約システム、キャッシュレスの導入による業務改善

### ■ システム開発

#### ● UI (ユーザーインターフェイス) /UX (ユーザーエクスペリエンス)

- 予約システムから予約することで、お客様のスマートフォン等にメール宛で予約番号とQRコードが送付され、受付窓口スタッフがタブレットで読み取ることで予約内容が確認できる。(個人情報、貸出・返却ターミナル、車種、台数、レンタル日数、金額)
- 申込用紙への記入が不要となり、事前にレンタル料金も確認できるため乗り出し前の手続きがスムーズになり時間短縮につながった。

#### ◆ 事前予約システム

(お客様スマートフォン等予約完了メール画面)

ご利用金額

合計金額  
¥6,000  
※現地

予約番号  
**SNJ-37932451**

内訳

【1日目】  
クロスバイク3,000円 2台

予約項目

貸出日時 2024-01-23

貸出希望時間

貸出ターミナル 尾道港(駅前港湾駐車場) (当日用)

返却日 2024-01-23

#### ◆ 貸出・返却システム

(しまなみジャパン受付窓口タブレット)

予約を探す (尾道港)

予約コードから探す

SNJ- 12345678

QRコードを読み取る

QRコード読み取り

## 8. 実証3 予約システム、キャッシュレスの導入による業務改善

### ■ システム開発

#### ● UI (ユーザーインターフェイス) /UX (ユーザーエクスペリエンス)

##### ➢ アプリ連携

周遊アプリ内にレンタサイクルの「新規予約」と「予約ID入力」の入口を設置。アプリ内で予約情報の確認や受付時のQRコード表示等を実現し、利便性を向上



## 8. 実証3 予約システム、キャッシュレスの導入による業務改善

### ■ レンタサイクル商品のデータ整備

予約・在庫システム導入により、ターミナル全体のレンタサイクルの適正配置と、予約上限数の見直しを実施

#### ● システム導入前

事前予約時に貸出車両の選択ができないため、予約者数と車両上限数に齟齬が生じたり、配置車両数を超える予約の申込みがあるなど、適正な車両配置が困難であった。

また、希望車種の予約ができないことで余分な事前準備の配置が必要であった。

#### ● システム導入後

予約・在庫システム導入により、**取り扱う全車種の予約が可能となり車種毎の予約上限数を設定できるようになったため、ターミナル別、車種別の予約者数の把握が可能となり、ターミナル全体の適正配置の見直しを行い予約上限数を増加**できた。

また、**予約時に希望車種の選択が可能になったことで、ターミナル毎の事前配置が容易**になった。

予約上限数（現行）								予約上限数（新予約システム）								
総数	クロス	シティ	E-bike	電ア	電ア幼	幼児イス	子ども	総数	クロス	シティ	E-bike	電ア	電ア幼	幼児イス	子ども	タンDEM
70	32	10	5	10		3	10	95	40	20	7	10	0	3	15	-
20	8	5		-		2	5	25	10	10	-	-	-	2	3	-
15	5	3		-		2	5	25	10	10	-	-	-	2	3	-
25	10	5		3		2	5	35	12	10	-	6	-	2	5	-
20	10	3				2	5	53	20	15	-	3	-	4	8	3
25	10	5		3		2	5	50	18	14	-	6	2	2	8	-
15	5	3		-			5	24	10	10	-	-	-	1	3	-
15	5	3		-			5	24	10	10	-	-	-	1	3	-
65	22	10	5	10			10	95	30	20	5	10	2	3	20	5
30	20	10		-			-	50	30	20	-	-	-	-	0	-
300	127	57	10	26	5	20	55	476	190	139	12	35	4	20	68	8

予約可能車種  
予約台数  
UP

## 9. 成果

### ■ 実証事業の総括

- ・ レンタサイクル利用者向け周遊アプリを構築・運用したことで、現在地を考慮した地図表示や立ち寄り・滞在ポイントとなる観光情報を提供することができ、旅行者の利便性向上と周遊促進が図れた。
- ・ また、周遊アプリ・データ連携基盤・予約システム等の複数システムを連携したことにより、「走行経路（GPSログ）」や「訪問地点」等のデータが収集可能となった。
- ・ それらのデータを活用することで、旅行者の来訪状況や地域内の周遊状況を把握することができ、観光消費につながるアイデア創出や観光関係者との相互送客等への足掛かりを築く等、今後のアクションプランの検討が可能となった。

KGI

目標値 事業期間中のアプリで計測可能な訪問地点延べ数 45,000地点

成果 事業期間中のアプリで計測可能な訪問地点延べ数 **69,281地点**※

実証内容

目標

結果

頁

実証1

KPI

レンタサイクル利用者向け周遊アプリの構築・運営

アプリDL数 10,000DL

**アプリDL数 13,260 DL**※

P.11

※2024年6月25日時点のデータ

実証2

観光地経営の高度化に向けたデータ連携基盤の構築

データ活用による観光関係者のアイデア創出・施策検討ができること。

データ活用初年度として、コンソーシアム内で実証期間中に定期的なフィードバックを行い、今治市、尾道市、上島町の3者に対して3市町会議でフィードバックを実施した。

P.15

実証3

予約システム、キャッシュレス端末の導入による業務改善

旅行者の利便性向上と共に、受付窓口業務の紙記入の受付や現金決済などのアナログからデジタル化へのシフトができること

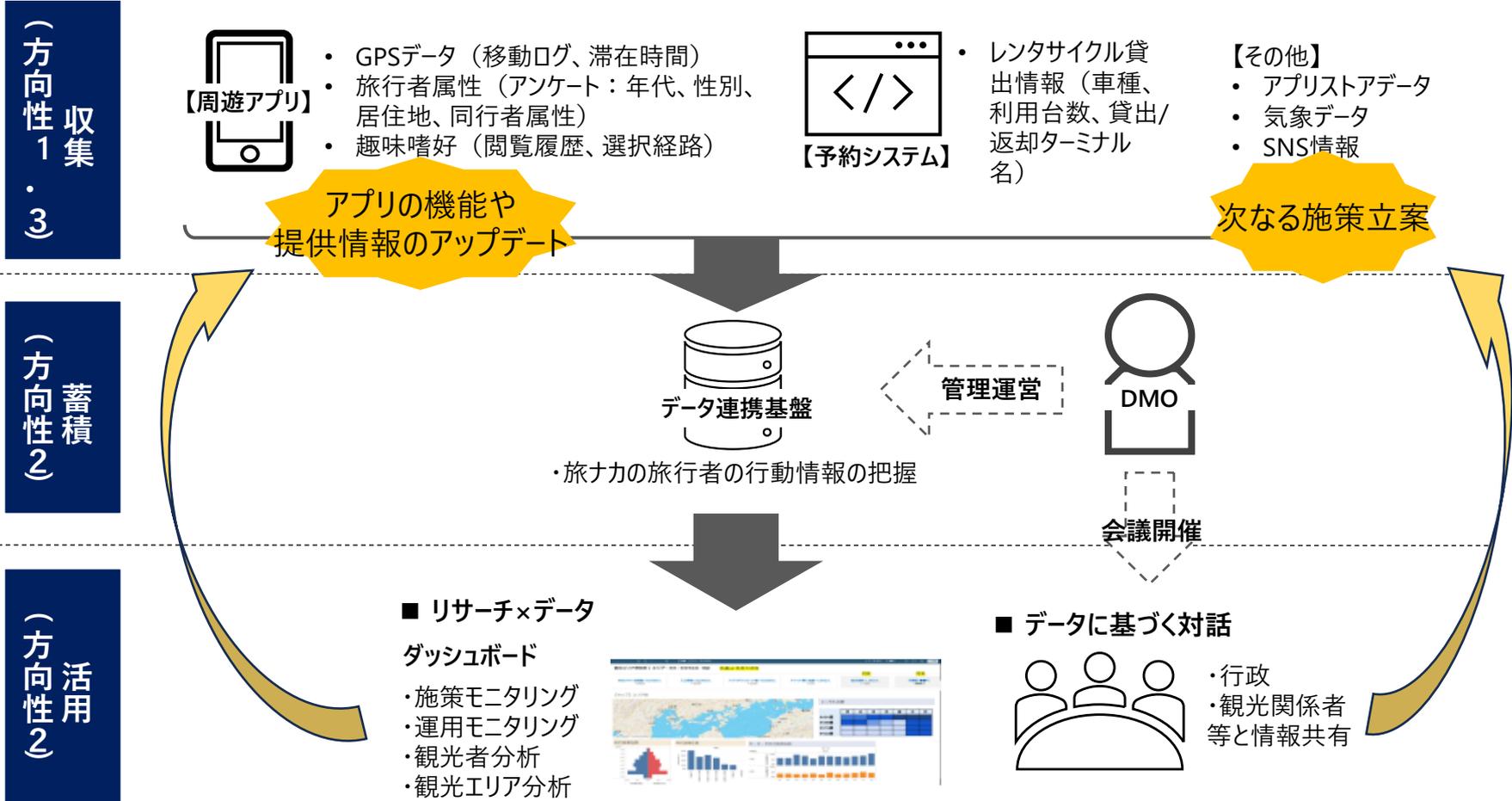
デジタル化により、受付業務、事務業務ともに効率化され、旅行者の利便性と従業員の生産性の向上に寄与した。

P.21



# 9. 成果

## ● 次年度以降のデータ活用の取組



今後、データ分析の理解を深めるための勉強会や様々な視点でデータを見ていく機会（定期モニタリング）を増やすこと、施策検討の場を設けること等を通じて、次なる打ち手を講じることができる状態を目指す

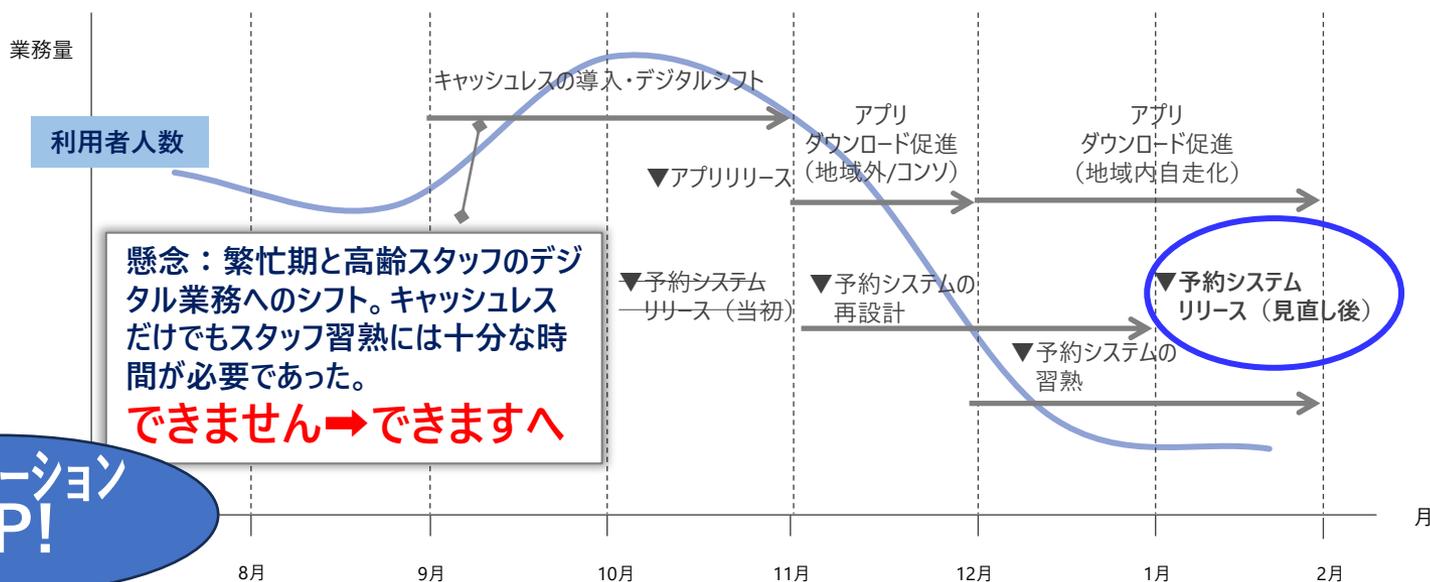
## 9. 成果

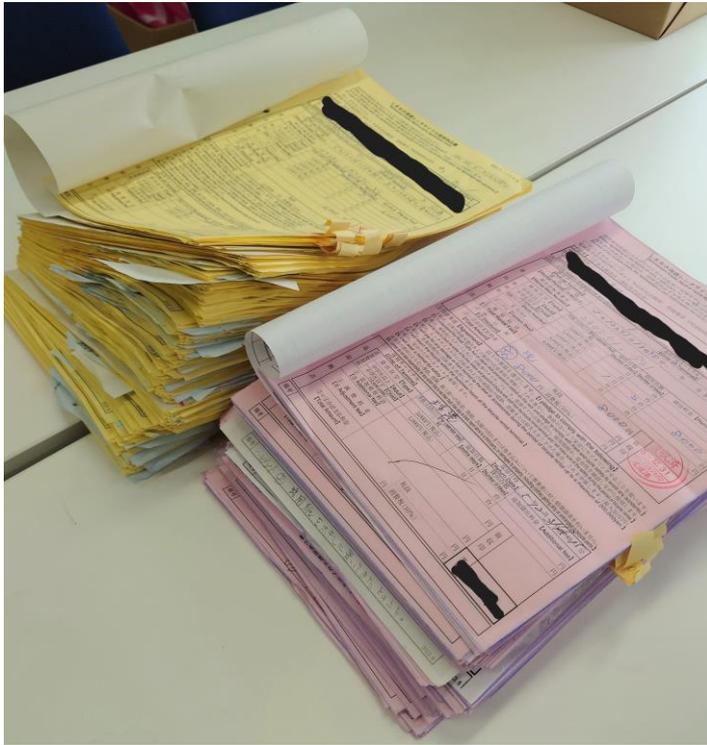
### ● デジタル導入・DXへの発展のプロセス

1. 限られた実証期間の中で、アナログ→デジタル→DXとステップアップしながら導入することが重要
2. アナログ→デジタルは、①利用者の関心やニーズの高まり、②現場を担う高齢スタッフ(60～70歳代)の業務改革という二つの軸をバランスよく保てたことがデジタル導入の成功につながり、モデル化のきっかけを作ることができた。
3. デジタル→DXは、①デジタルで基礎力を付けて成功体験をベースに、②アプリからのデータを活用するというDXへのシフトを実現

#### 【内容】

- 最初のデジタル導入がキャッシュレスからだったのが成功要因の一つ。何年もの間利用者からのニーズが高かったことと、スタッフ自身がカード支払いやスマホ決済を知っていたり経験していたことで、スムーズに導入できた。
- 予約システムは、当初の導入時期を遅らせたことで、繁忙期に不慣れな受付で混乱するという事態を回避する結果となった。
- 利用者へのカスタマー・ファーストの意識を最優先にして、リスクを把握・事前予測してプロジェクトを準備・立ち上げ・進行させていくことが重要である。
- 利用者の利便性向上を目的に、現場スタッフの負担も軽減しつつ、どのタイミングで実証事業を実行していくかは、今後の事業継続を大きく左右するものとなる。





手書きの利用申込書（1か月分）  
+  
現金決済



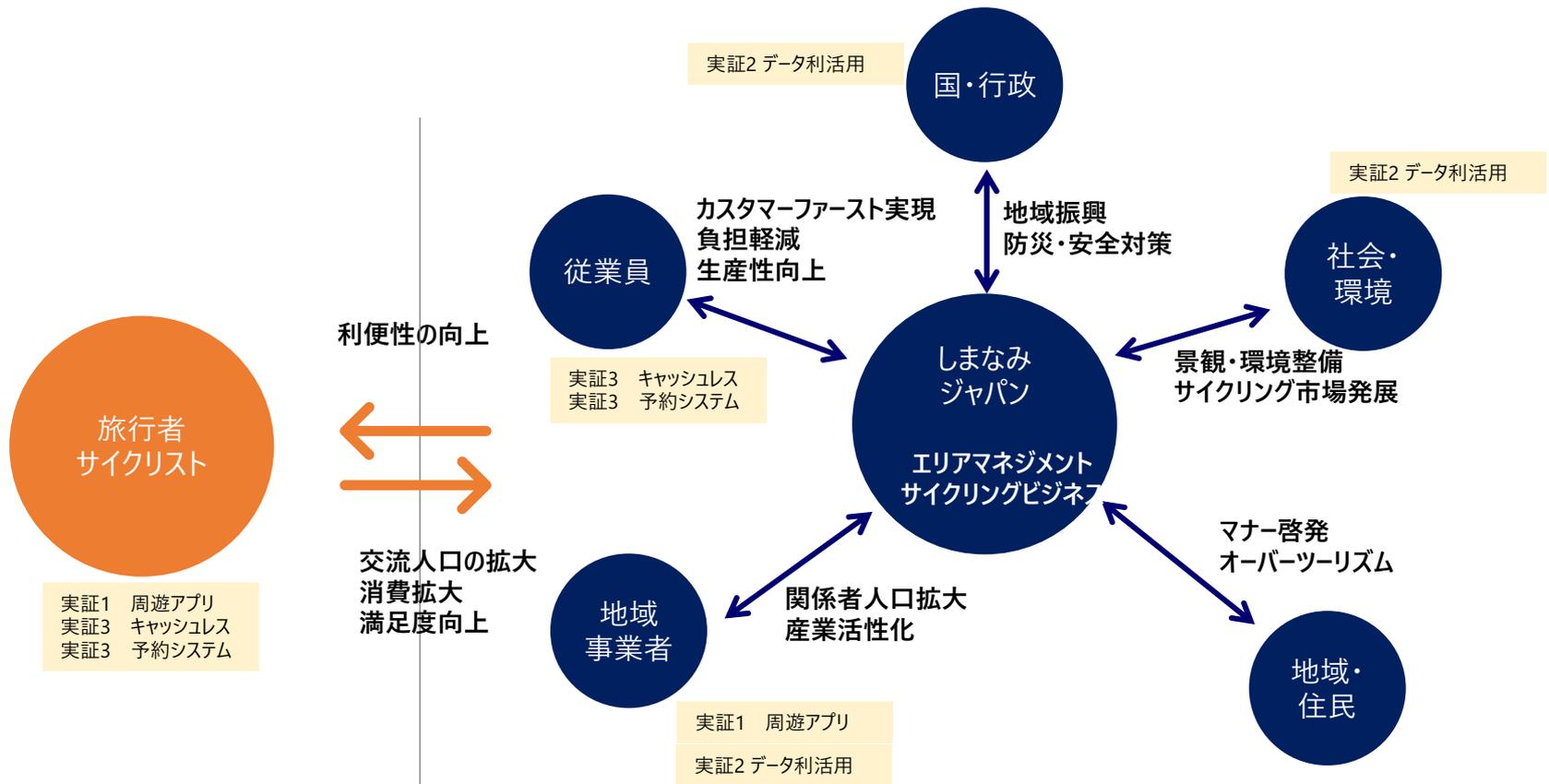
タブレットによる予約内容の確認



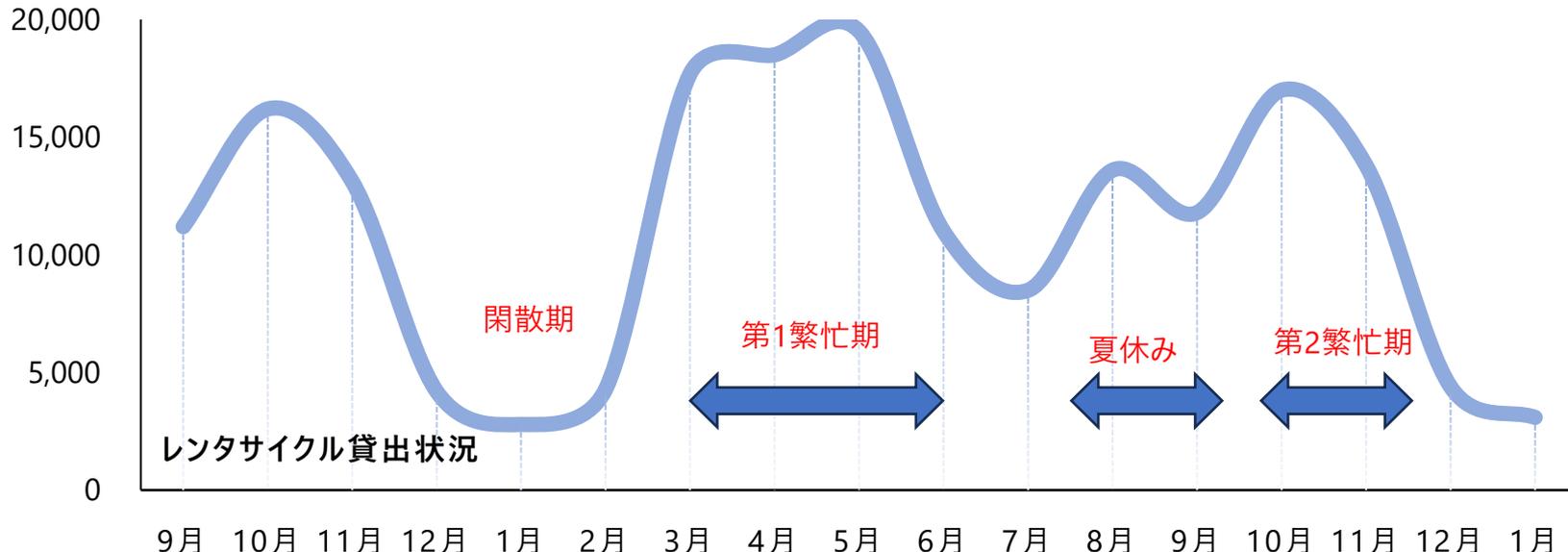
キャッシュレス決済

# 10. DX事業で見てきた将来ビジョン

- しまなみジャパンが目指す地域づくりには、地域に関わる人々とのつながりを深め、将来に続く信頼関係の構築が求められます。
- 広島県、愛媛県を跨ぐしまなみ海道において、行政や事業者だけでなく、旅行者ひいては、地域に関わるすべての人々の考えや想いを形にし、「サイクリスト」をきっかけにするエリアマネジメントを実践することを目指します。



観光DX 「サイクリスト」をきっかけに、地域が潤うエリアマネジメントの実現が最も重要



アプリDL促進

point!

年間を通じたサイクリストの行動実態の把握！

3月～6月の第1繁忙期、8月～9月の夏休み期、10月～11月の第2繁忙期のデータが重要  
しまなみ海道サイクリストの年間を通じた行動実態を把握し、新たな価値を見出す

アプリの発展

point!

あらゆる角度から周遊データを獲得！

スタート・ゴールを自由に設定。他社のレンタサイクル利用者やマイバイクの方にもアプリ利用を  
拡大。多様な利用者から得られる情報で、より精度の高い周遊データの見える化を図れる

地域周遊促進

point!

あらゆる観光地情報を網羅。ナビ機能搭載で周遊促進！

アプリで提供する情報を最大集約し、スマホで行き先をナビゲーションすることにより、更なる  
周遊促進と消費拡大を図る。

着手!

電動アシスト付自転車

E-Bike 増車

point!

電動アシスト付自転車やE-Bikeなら、年齢・性別・体力に関係なく  
ラクラク登れる!

日本の展望スポットランキング2017年第2位「亀老山展望台」、桜の名所「積善山展望台」など、しまなみ海道屈指の絶景ポイントへ周遊促進

電動アシスト付自転車

E-Bike 複数日貸し

point!

複数日レンタルにより、旅マエに宿泊プランが追加!

島内をゆっくり周回、宿泊による滞在時間の延長・消費拡大を目指す  
また、ゆめしま海道への周遊を促す

実現!

観光と安全・防災

point!

危機管理対策! しまなみ海道の安全と災害対応を考える!

サイクリング中の安全確保に加えて災害発生時に、アプリのGPSにより近くの避難所までのルートを表示 (災害アプリとの連携)

イノベーションプログラム

point!

サイクリング観光の実態や波及効果をデータで可視化!  
地域事業者、地域住民が一体となって持続可能な観光地作りを目指す!

イノベーションプログラムによる事業者主体の新たな施策発案やシビックプライドの醸成

地域の発展

point!

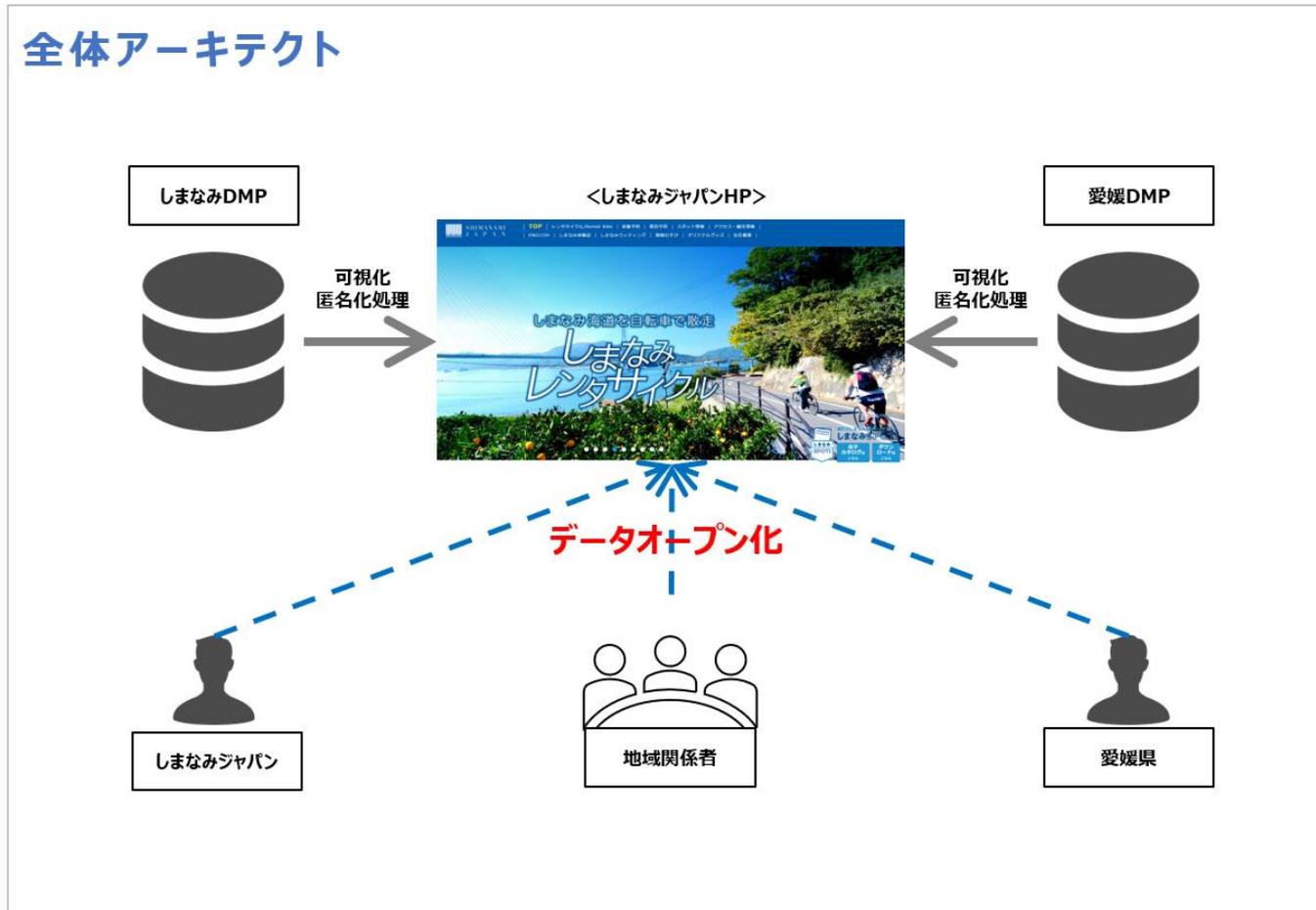
人と地域、企業と地域がつながる!

安定した観光地経営が移住促進・起業定住へとつながり、投資を呼び込んで新たな発展へ

付加価値の拡大

# 11. 今後の展望

## ■ しまなみDMPと愛媛DMPを接続する仕組みづくり



# 11. 今後の展望

## ■ 周遊促進の成果から愛媛県内での連携強化、さらに広島県への連携へ

### ● ロードマップ

